



全国学力学習状況調査 大分県学力定着状況調査

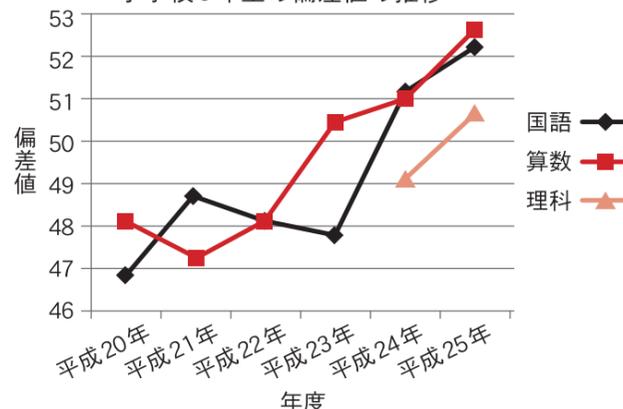


平成25年度	大分県学力定着状況調査(4月16日実施)
対象学年等	小学校5年生(9904人)・中学校2年生(9704人)
参加方式	●県内全ての市町村立、県立の小中学校 ●国立・私立は希望により参加
調査内容	●小学校5年生 国語・算数・理科 ●中学校2年生 国語・数学・理科・英語 ※何れの教科も「知識」「活用」 ●総合質問紙調査
その他	平成24年度から理科を追加 平成24年度までは「大分県基礎・基本の定着状況調査」として実施

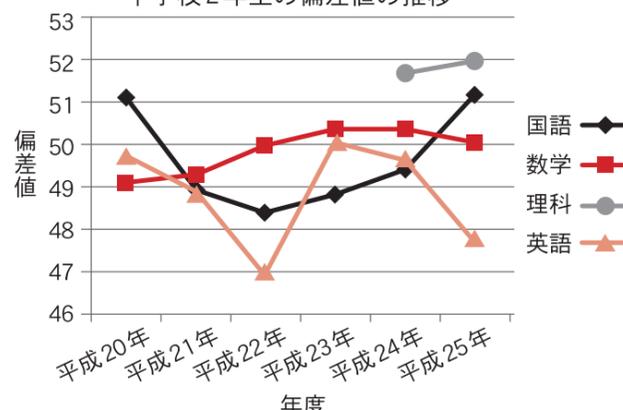
＜大分県学力定着状況調査の結果＞ ※表中の値は偏差値 ※色は偏差値50以上

	小学校5年生				中学校2年生									
	国語		算数		理科		国語		数学		理科		英語	
	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
杵築市	52.3	50.9	52.7	53.5	50.7	50.6	51.2	49.9	50.1	50.1	52.0	50.2	47.7	48.3
大分県	51.4	50.2	52.0	51.7	50.9	50.7	50.5	49.9	50.8	50.3	50.2	49.7	48.9	49.5

小学校5年生の偏差値の推移



中学校2年生の偏差値の推移



大分県学力定着状況調査は、今年度から「知識」と「活用」に分けて調査結果が示されました。小学校では国語、算数、理科の「知識」と「活用」が全て偏差値50を超えました。実施教科全てで偏差値50を超えたのは、調査開始以来、初めてのことです。

中学校では、国語の「知識」、数学の「知識」「活用」、理科の「知識」「活用」の5項目で偏差値50を超えました。

県内全市町村の偏差値比較では、全14項目中、11項目で10位以内に入りました。特に、小学校では算数「活用」が第1位、国語「活用」が第3位、中学校では国語「知識」が第4位、理科「知識」が第5位でした。

県偏差値との比較では、小学校が3教科中2教科で、中学校が4教科中2教科で県の平均を上回りました。

中学校英語は、「知識」の偏差値が50を下回っており、早急に授業改善に取り組まなければなりません。

11項目で偏差値50超え



真摯に学習に取り組んでいます

大分県学力定着状況調査と同時に実施された総合質問紙調査の結果、次のようなことがわかりました。

小学校では、「夢中になった、勉強がおもしろいと思っただ、やる気が出た」という記憶に残っている授業があります。

「の質問項目で肯定的な回答が多く、中学校では、「テストで間違えた問題は、あとでやり直していますか」の質問項目で肯定的な回答が高い数値を示しました。

この結果は、学習に取り組む一生懸命さを示しているといえます。

あいさつをよくします

「近所の人にあいさつしますか」の質問項目で小・中学校ともに全国より肯定的な回答が高い数値を示し、社会参画等のソーシャルスキルの基本が身につけていることがうかがえます。



平成25年度	全国学力学習状況調査(4月24日実施)
対象学年等	小学校6年生・中学校3年生
参加方式	全ての小・中学校
調査内容	●国語A(主として知識)/国語B(主として活用) ●算数・数学A(主として知識)/算数・数学B(主として活用) ●質問紙調査(児童生徒・学校)
その他	平成22・24年度は文科省からの抽出方式により実施 平成23年度は震災のため未実施

＜全国学力学習状況調査の結果＞

※表中の値は平均正答率 ※色は全国正答率を上回った問題

	小学校6年生				中学校3年生			
	国語		算数		国語		数学	
	A	B	A	B	A	B	A	B
杵築市	63.1	49.7	76.7	59.6	73.5	61.4	57.9	34.6
大分県	62.3	48.7	78.7	57.8	76.0	66.7	62.0	39.2
全国	62.7	49.4	77.2	58.4	76.4	67.4	63.7	41.5



小学校国語に改善の兆し

小学校の国語A・Bが初めて、算数Bが昨年引き続き県・全国の平均正答率を上回りましたが、小学校算数A、中学校国語A・B、数学A・Bでは県・全国の両方を下回るという結果でした。

以上のことから、小学校において「国語科の改善」、「両教科ともに活用に関する学力状況の改善が見られたといえます。

課題としては、「基礎的・基本的な内容の確実な習得」と「中学校を中心とした一層の授業改善」が挙げられます。

「国語好き」「算数好き」・・・「勉強好き」に

全国学力学習状況調査の際に行われた児童・生徒質問紙調査では、次のようなことがわかりました。

小学校では、国語・算数の捉え方について「勉強は大切だと思ふ」「内容はよくわかる」「将来、社会に出た時に役立つと思ふ」と回答した児童が全国値より高い数値を示しているものの、「好き」と回答した児童は全国値とほぼ同程度でした。

これらの質問項目のいずれも、中学校では全国値を下回っており、教科としての面白さ、生活の中で活用されている実感がともなった授業の必要性が示されました。